障がい児福祉計画アンケート調査
（障がい児）

【結果報告書】

令和8年9月

芽室町

Ⅰ　調査の概要

1 調査の目的

第4期芽室町障がい児福祉計画を策定するに当たり、現在のニーズを把握し、今後の支援体制のあり方を検討するためアンケート調査を実施しました。

2 調査概要

■調査方法

調査票によるアンケート調査。郵送配布・アンケート用紙またはオンラインによる回収。

■調査期間

令和8年7月31日（金）～令和8年8月21日（金）

■調査対象者

18歳未満の障害者手帳（身体・療育・精神）をお持ちの方、または障害児福祉サービスを利用されている方とその保護者

	配布数	回答数	回答率
今回 （令和8年度）	134人	49人	36.6%
前回 （令和5年度）	63人	34人	54.0%

※回答内訳
アンケート用紙　11件
オンライン　38件

3 報告書の見方

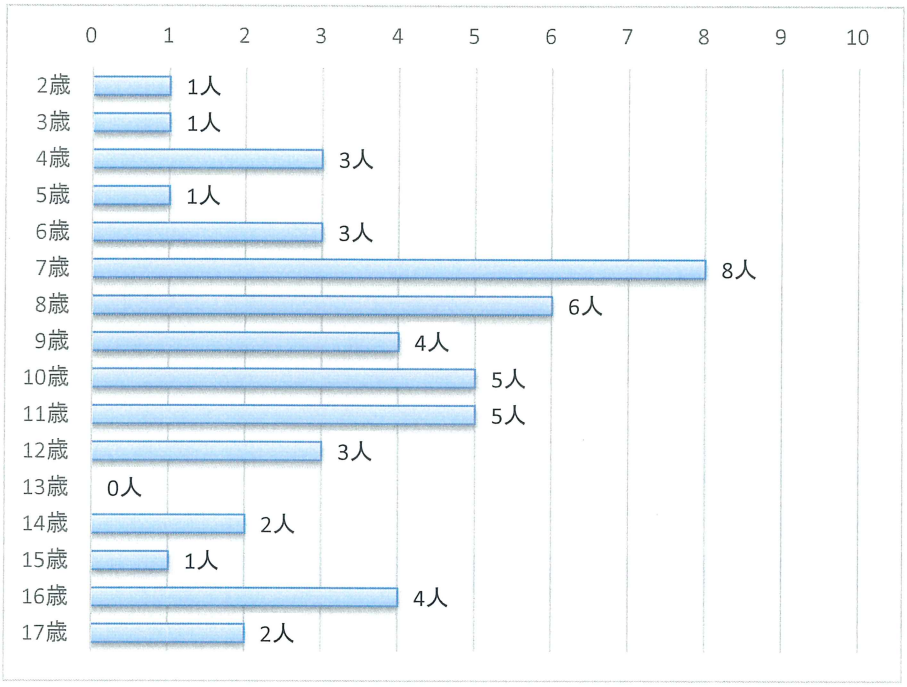
- 回答結果の割合「%」は回答数に対して、それぞれの割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答はアンケートの回答者数に対して、それぞれの選択肢を回答した割合を示しているため、合計が100%を超える場合があります。
- 「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問や選択肢は簡略化している場合があります。
- 個人が特定されるような自由記載は掲載を割愛しています。

Ⅱ　調査結果（児童）

■こどもの状況について

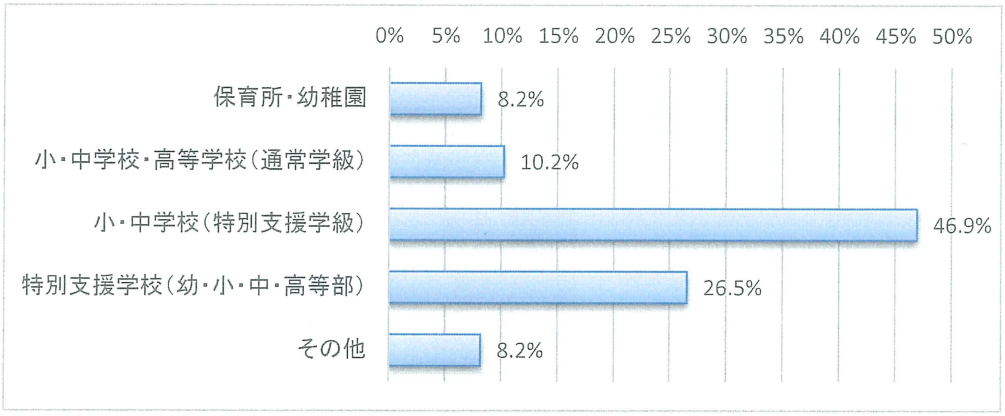
1 年齢

【人】



2 通園・通学場所

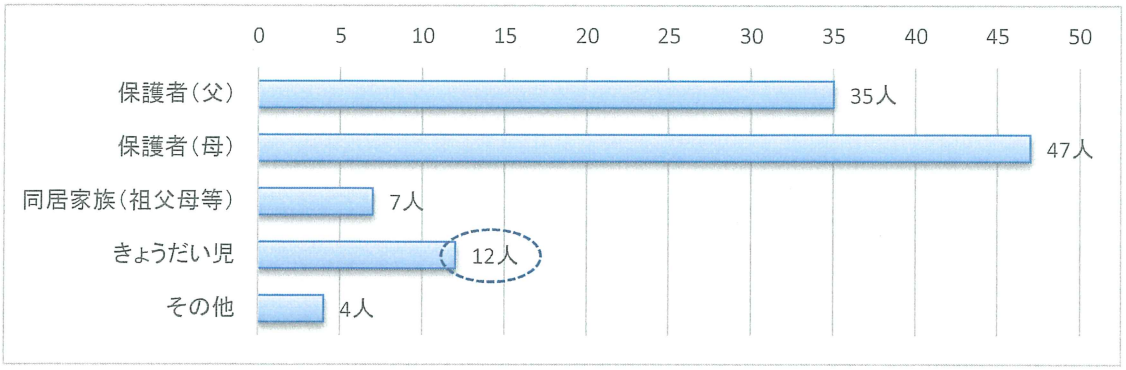
【%】



その他：盲学校、療育園、不登校

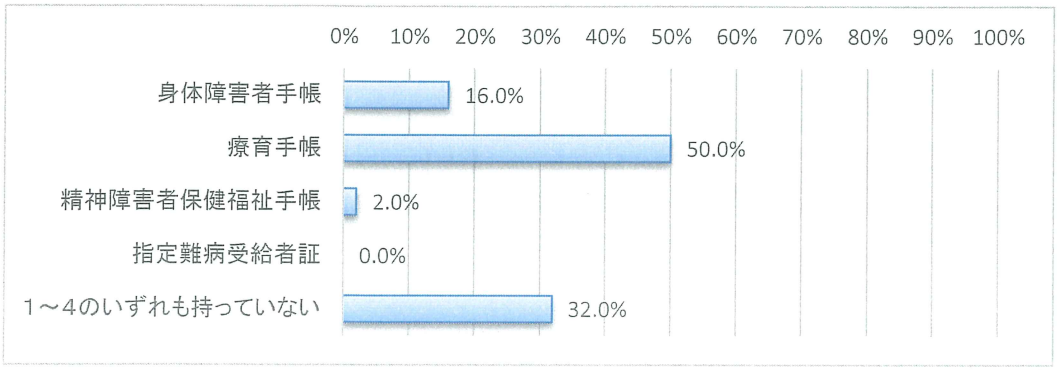
3 お子さんのケア（見守り・付き添い）

（複数回答 あてはまるものすべて）【人】



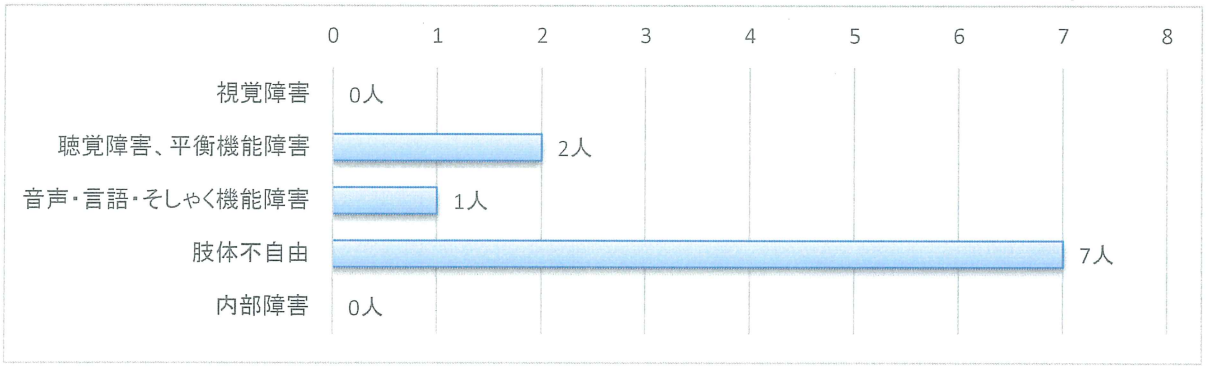
その他：実家の家族　1人／別居している祖父母　3人

4 手帳の種類　【%】



※身体障害者手帳及び療育手帳を持っている　1人

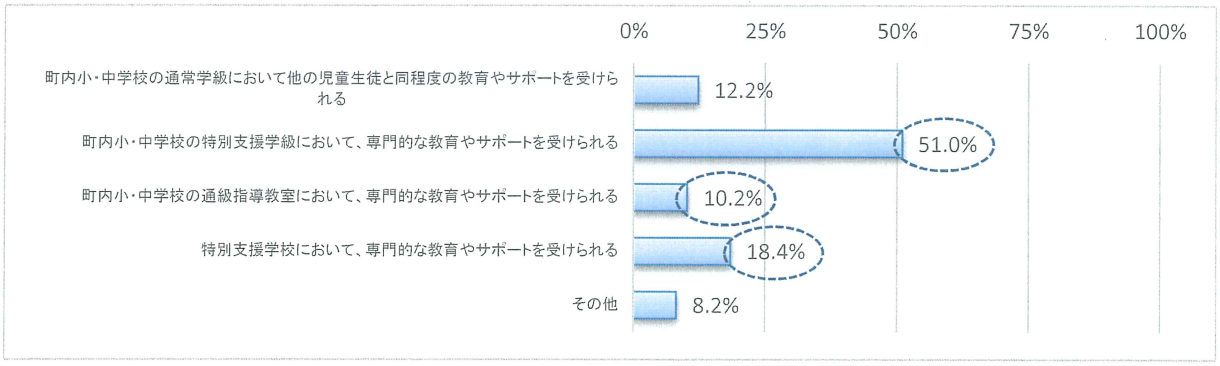
4−1　身体障害者手帳の障がい種別　【人】



※複数の種別に該当する　1人

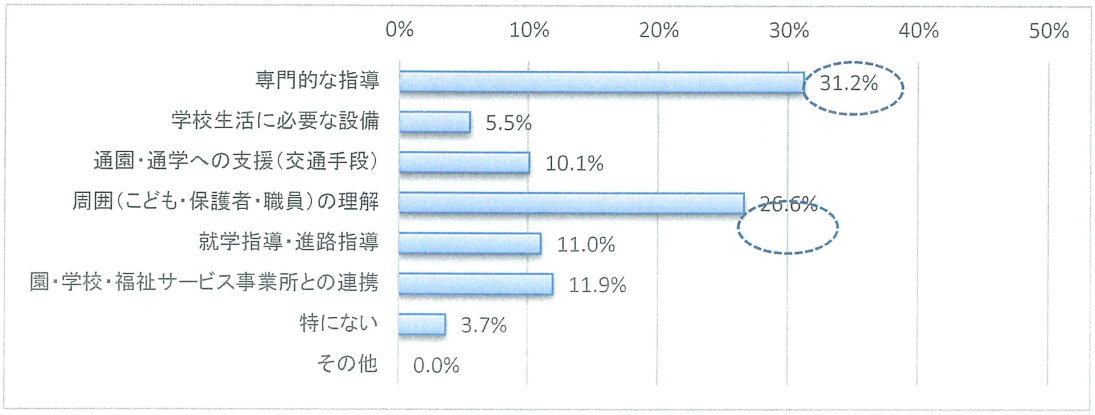
■教育・就学について

5 支援が必要なこどもの就学先として望ましい場所　【%】



その他：盲学校／次の就学先がないため。／それぞれ必要な支援や関わりは違うと思うので個々に応じて選択できることが望ましい。／上記全て、その子が必要なサポートを受けられる所。

6 学校・園等でさらに充実が必要だと思う部分　　（複数回答 あてはまるもの3つまで）【%】



具体的なこと（9件）

・幼稚部では交通費が支給されていました。しかし、小学に上がると支給されなくなってしまいます。盲学校からは芽室町に来るバスはありません。毎日6年送り迎え大変です。親の負担を軽くしてほしいです。

・発達障害専門の学習した教員。

・特別支援学級に在籍していますが、支援学級担任の先生1名に対して担当児童の数が多く、先生がとても忙しそうです。

・特性や理解度に合わせた学習内容でなかった時には登校を渋ることがあった。安心して登校でき、社会と繋がり続けることを大切にしたい。

・スクールバスで登校しているが、家から停留所まで毎日の送迎と、週4回帯広の放課後デイサービスの利用の際の送迎が負担です。

・親の送迎以外の選択肢が無い。現在、社協さんの送迎サービスを利用しているが料金が高く、自宅以外からは使えない。祖父母宅などからも使えるなど、サービスの幅を広げてほしい。

・子供の状況によって、学年の担任や学校支援員の人数を、通常人数の配置より増やせると良い。

・こだわりや不安の強さはわがままなように見えるため、子どもから浮いてしまうことがある。こういうときこんな気持ちなんだよ。と理解のある人がいてくれたらいいなと思う。

・療育では学習支援を受けられないので、学習面に特化した支援があれば良いなとずっと伝えてきています。学校の支援学級で授業を受けていますが、学習内容を習得するのには通常以上に時間がかかり、学年があがるにつれて未習得な部分が増えてきたり、家庭でのフォローには限界があるのが現状です。個別指導の学習支援、切に願います。

■こどもの状況についての回答からわかること

・アンケート回答者の割合は未就学児童8人、小中学生34人、高校生7人です。

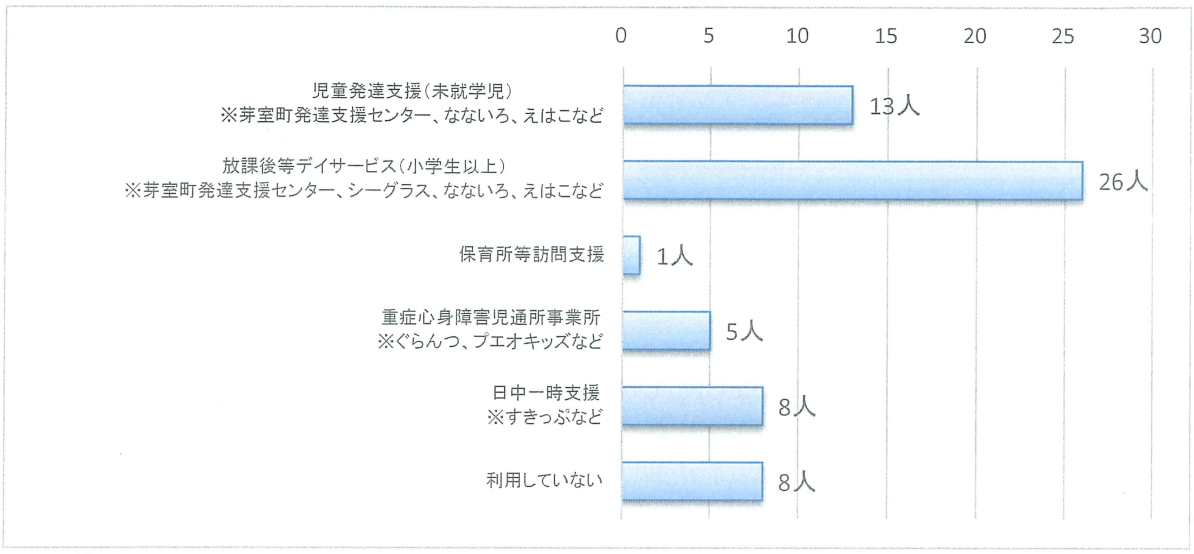
・問3お子さんのケア（見守り・付き添い）をしている方について、きょうだい児がケアに協力している家庭が12件見られました。特に発達支援を要する小学生以下のきょうだいを持つ「きょうだい児」が見守りや付添いに協力していることがわかります。また、身体障害者手帳所持や、重症心身障害児通所事業所を利用する児童の家庭については、父母、祖父母、きょうだい等家族全体でお子さんのケアを行っている実態が確認できます。いずれも福祉サービスや相談支援事業所につながっている現状です。

・問5では、就学先の望ましい場所として約8割の家庭が特別支援学級・学校を選択しています。問2現在通園・通学している場所とクロス集計してみると、63.4%が望ましいと考える場所で学習できている結果となりました。一方で、問6では、職員の更なる専門的な指導やサポート、障がいの理解を求める声が寄せられています。

・問6学校・園生活の充実のために必要な具体的なものとして、通学における交通費や送迎の負担軽減を求める声が複数寄せられました。

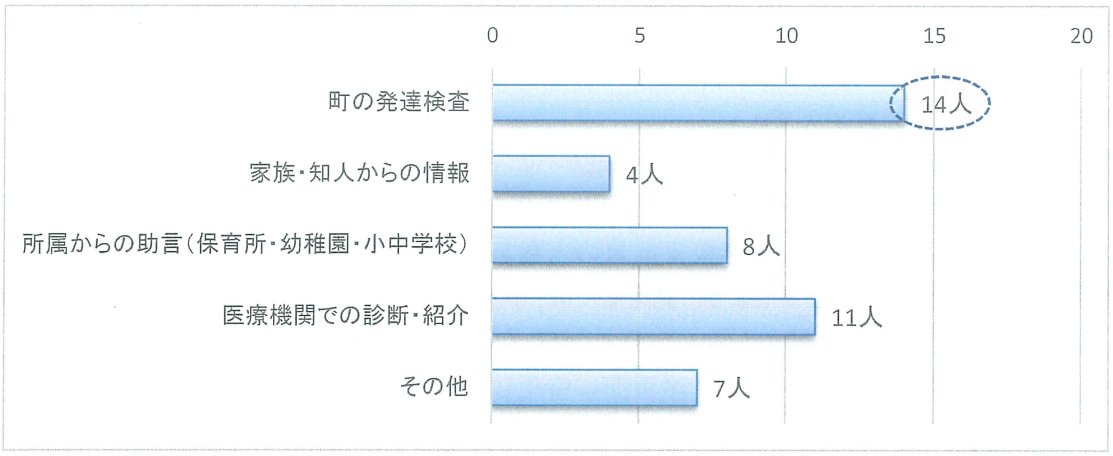
■障害児通所支援サービス等の利用について

7 現在利用しているサービス　（複数回答 あてはまるものすべて）【人】



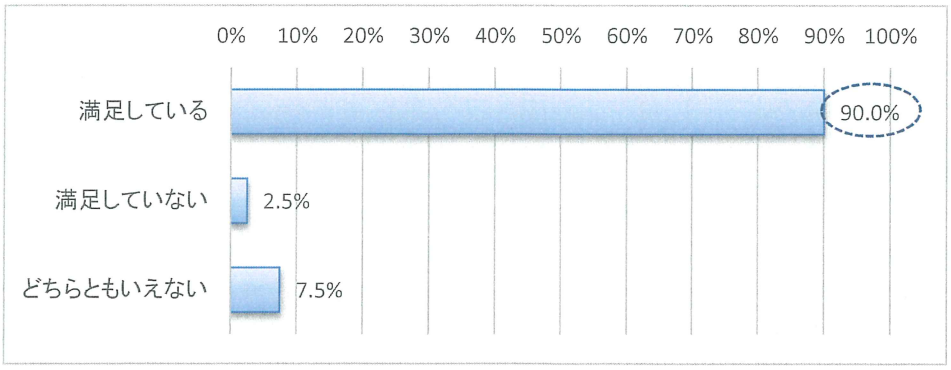
※回答なし 1人

8 利用を決めたきっかけ　（複数回答 あてはまるものすべて）【人】



その他：保健師さんからの助言。／芽室町子育て支援サービス／釧路市に住んでいたので発達の相談をした医療機関から情報をもらいました。／役場の方／子育て支援センターで相談した。／子育て支援課さんの紹介。／仕事を続ける為。

9 利用しているサービスの満足度　（複数回答 あてはまるもの1つ）【%】



10「満足していない」「どちらともいえない」理由

・人数制限の為、サービスを受けたくてもキャンセル待ちになってしまう。

・送迎をしてくれることのありがたさはあるが、子どもが”いきたくない””やめたい”と通い始めてすぐに言い始め、このまま通わせてていいのか悩みどころです。

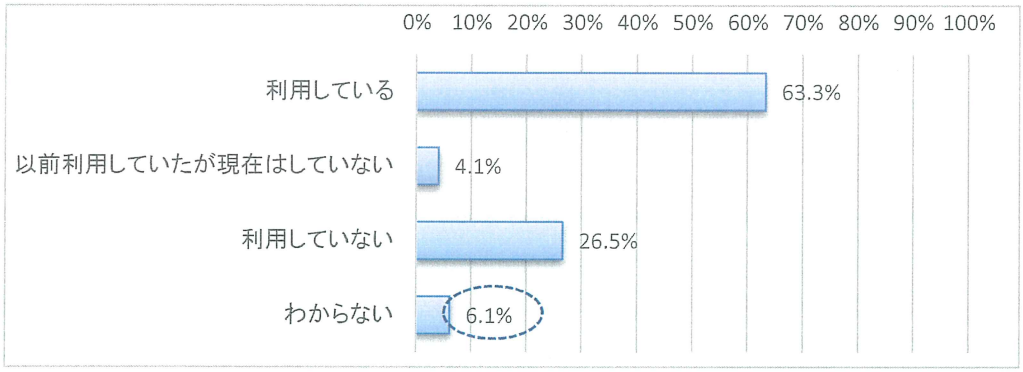
・支援センターでのグループ療育の日数が少ない、高校生が利用できる療育がない。

・本来受けたい支援と、受けられる支援の内容に相違があるため。

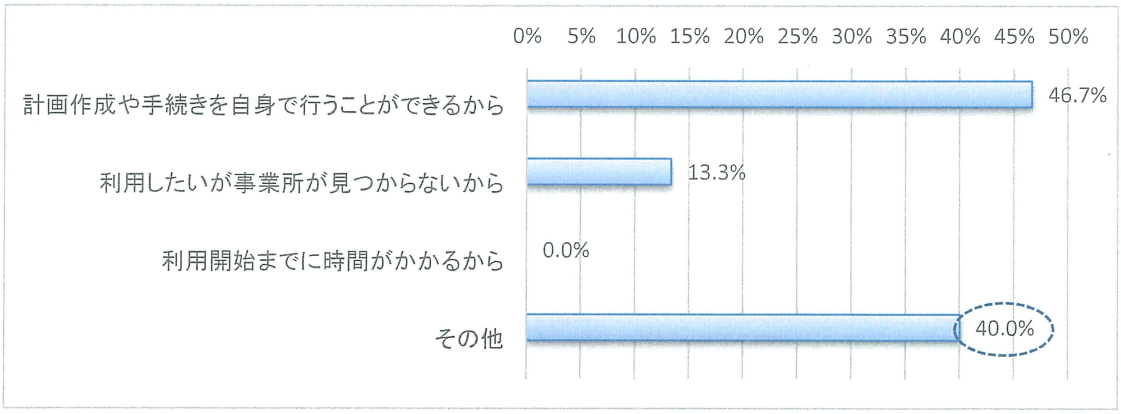
■障害児通所支援サービス等の利用についての回答からわかること
・問8利用のきっかけについて、発達検査や子育て支援課職員等の町の助言がきっかけとなったケースが最も多く、町が支援につながる入口として機能しているものと分析できます。次いで医療機関の診断、園・小中学校等の所属からの助言が多い結果となり、町・医療・教育機関がそれぞれの役割を発揮していると考えます。
・問9利用しているサービスの満足度について「満足している」と答えた方が90.0 %であり、サービスが一定程度利用者のニーズに応えることができていると捉えられます。一方で、一部にサービスへの不満や評価が定まらない家庭もありました。

■障害児相談支援事業所（計画相談）の利用について

11 障害児相談支援事業所利用　【%】



12 利用していない理由　（複数回答 あてはまるものすべて）【%】



その他：利用するに至っていない。／家族間の考え方により利用してない。／町に任せてる。／習いごとで忙しい。小さい頃から利用していないので、子供も行きたがらない。放課後デイ←コロナ禍の小学生の時に見学に行ったことはあった。／どう使うのか、誰が使うのか分からない、校区外通学の為。

13 期待すること

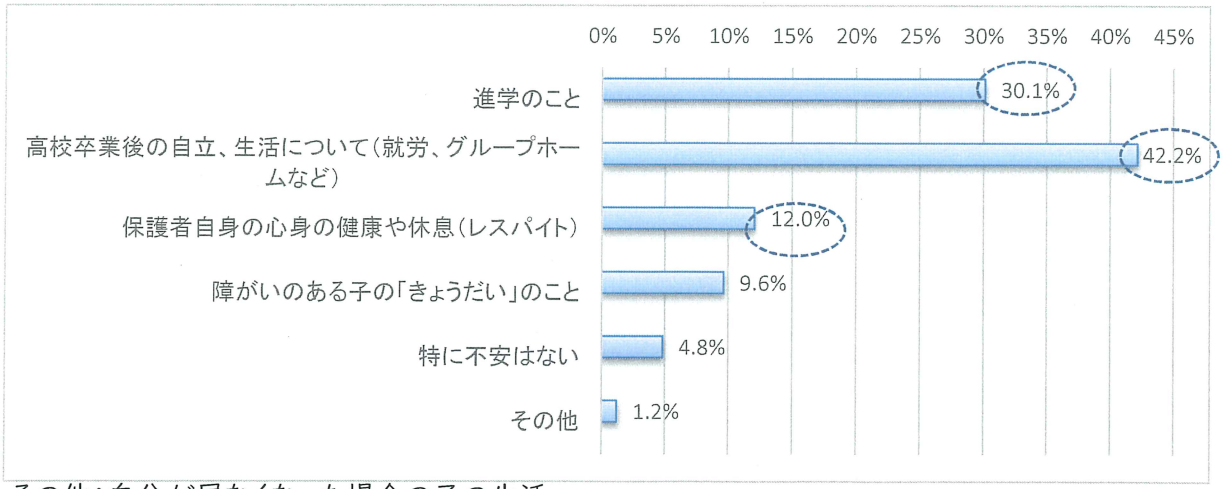
・特になし。
・もっと専門的な知識と助言があれば保護者が助かるかもしれません。事例などは伝えてくださっていて助かってます。
・進路、就職相談。
・進路相談。
・専門的な助言、保護者と本人に寄り添った選択肢の提供。
・家庭、療育先、学校、地域との連携の密度を期待する。
・専門的な助言。
・現状維持で良いと思います。
・受けられる支援や、将来のこと（高校、大学）私が調べて分からないことなどを教えてもらえたらと思います。
・学習支援の専門支援。

■障害児相談支援事業所の利用についての回答からわかること

・問11「障害児相談支援事業所を利用しているか」の設問に対して、「わからない」と回答した方が6.1%いました。また、問12「利用していない理由」について「どう使うのか、誰が使うのかわからない」と回答がありました。制度自体への理解不足から利用に至っていない現状があり、制度の周知や、必要とする人に適切に情報が届く仕組みづくりの改善が必要と考えます。
・問13「相談支援事業所に期待すること」の記載結果から、専門的な助言と、進路や将来に関する相談支援への期待が大きいことがわかります。

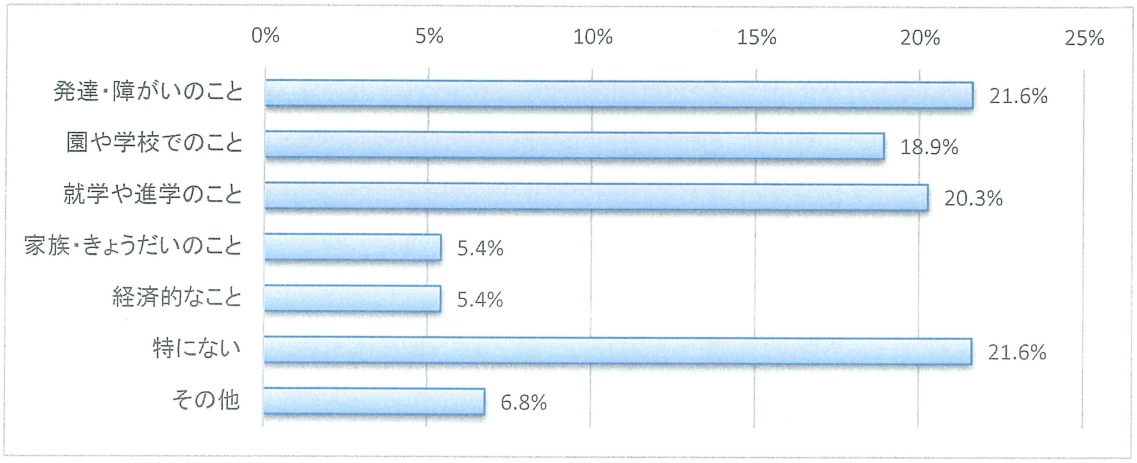
■相談支援・情報収集について

14 お子さんの将来の不安　　（複数回答 あてはまるものすべて）【%】



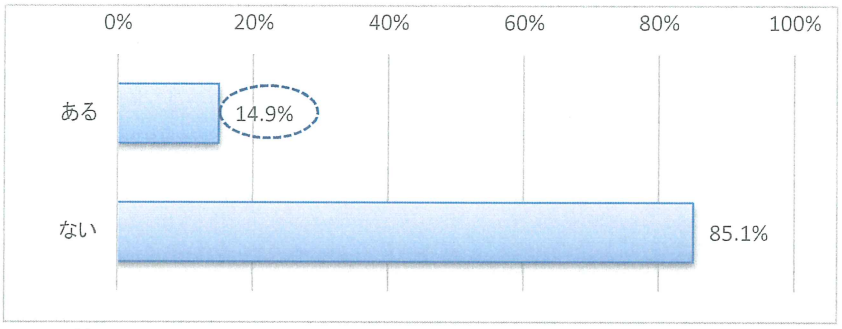
その他：自分が居なくなった場合の子の生活

15 現在の悩みや相談したいこと　（複数回答 あてはまるものすべて）【%】



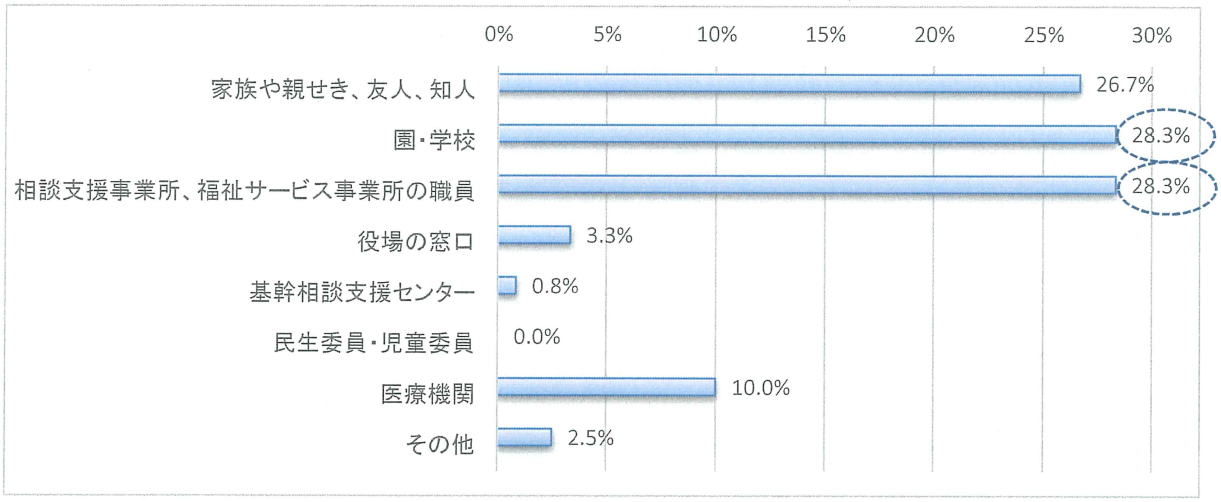
その他：小学に上がったあとのデイサービス。／同じような障害をもっている成人しているお子さんを持った保護者のお話を聞いてみたいです。／就労支援事業所で本人の希望と保護者の希望に沿った支援をしてもらえるか。／仕事と時間の使い方。／子が小学校卒業までに土日祝通わせられるデイサービスを新たに見つけないと、親の仕事ができなくなること。

16 どこへ相談したらいいかわからないこと　【%】



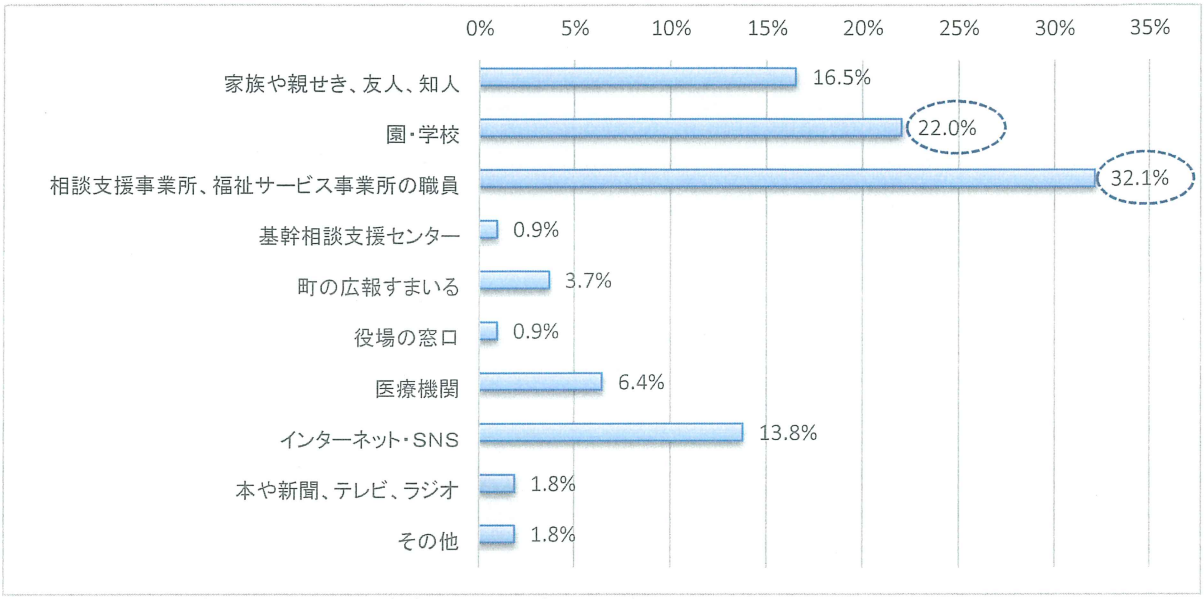
※回答なし 3人

17 困った時は誰に相談しているか　（複数回答 あてはまるものすべて）【%】



その他：子育て支援課保健師／自分で情報収集しています。／個人で依頼しているカウンセラー

18 情報をどこから知ることが多いか　　（複数回答 あてはまるもの3つまで）【%】



その他：子育て支援課保健師／講演会・地域の保護者会など。

※3つ以上○　2人

■相談支援・情報収集についての回答からわかること

・問14お子さんの将来の不安では、「高校卒業後の自立、生活（就労、グループホーム等）」が42.2%、次いで「進学のこと」30.1%と高い割合となりました。「高校卒業後の自立、生活」と回答した方は、小学生以下のお子さんを持つ家庭も多く（未就学児3人、小学生20人、中学生以上11人）、こどもが小さいうちから学齢期終了後の生活について不安に感じている方が多いことが推測されます。次期計画では、学齢期から卒業後まで切れ目ない相談支援体制の充実が重要と考えます。また、保護者自身のレスパイトも12.0%あり、保護者を支える家族支援も求められています。

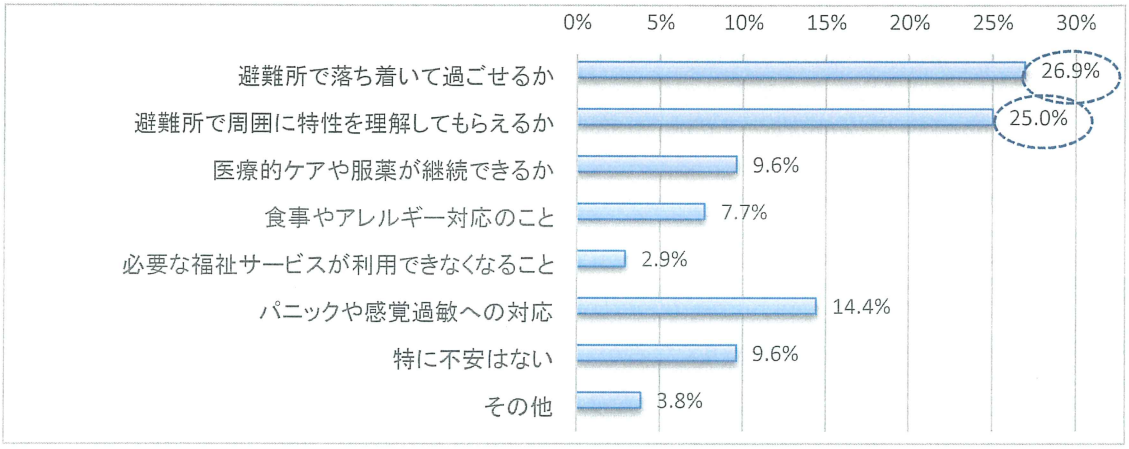
・問16では、現在の悩みについて「どこに相談したらいいかわからないことがある」と14.9%の方が回答しています。一定数の方が相談先に迷っている現状があることから、「どのようなことを、どこに相談すればよいか」相談の入口をわかりやすくすることが必要と考えます。

・問17困ったときに相談先について、前回調査では「家族・親戚」が最も多かったのに対し、今回の調査では、児童が普段通う場所である「園・学校」や「相談支援事業所・福祉サービス事業所」の割合が最も高い結果となりました。このことから困りごとを家族だけで抱えるのではなく、身近な専門機関に相談する傾向が強くなっていると考えます。

・問18情報の入手先についていは、「相談支援事業所・福祉サービス事業所」が32.1%、「園・学校」が22.0%、「家族や親せき、友人、知人」が16.5%、「インターネット・SNS」が13.8%となりました。町の広報誌や役場の窓口から情報を得ている割合は低い結果でした。このことから、保護者にとって障がいや福祉サービスに関する情報提供の中心が、日常的にこどもや家庭に関わる専門機関や園・学校、身近な人にあると判断できます。

■災害時の対応について

19 災害が発生した場合の不安　　（複数回答 あてはまるものすべて）【%】



その他：寒い・暑いの温度調整。衛生状況・普段病院から処方される栄養剤の確保／体温調整が難しいため夏場エアコンが使えないと発作に繋がること。また、発作が起こった場合すぐに病院に連れていくことができるのか。／様々な年代との交流、犯罪への巻きこまれ（のぞき）など。

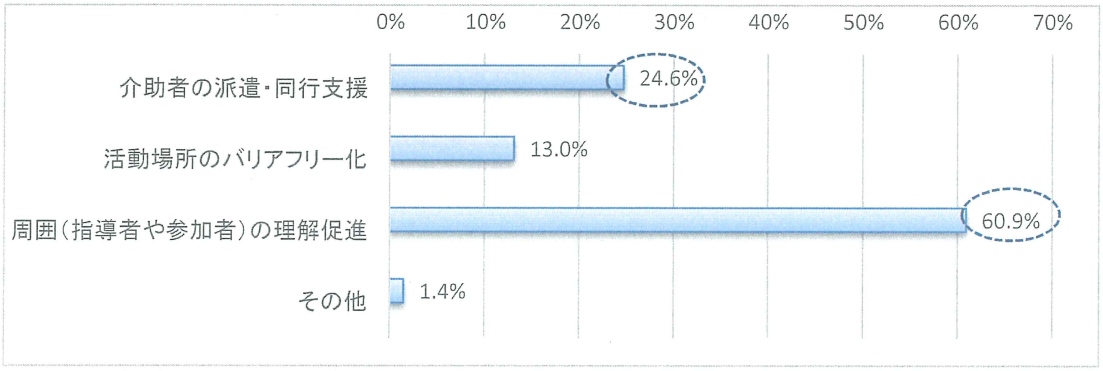
20 災害時、特に必要とされる配慮

・人工呼吸器や吸引器を使用しているので、電源を確保できるか心配。
・個室があると落ちつくのでありがたいです。（大きな音が苦手なため。）
・見通しを持てるようにする。
・安心できる環境を整える。
・保護者との情報共有→災害時は誰に頼っていいのか、必ず支援ができる人がその地区の避難場所にいるとは限らない。
・静かで人が少ない場じゃないと、避難は難しいと考えています。偏食対応については自宅にある程度準備はしてありますが、住居に被害が出ていられない場合は車中にいるしかないかもと思っています。障害のある人を集めた場があったとしても、お互いの癇癪や独語に影響し合い、難しいのではないかとも思っています。パーテーションが有るか無いかでも大分変わるかもしれません。
・普段と違う状況や見通しが立たないことにストレスを感じやすいので、静かな場所で気持ちを落ち着かせることができると助かります。
・動き回っても大丈夫なスペースがあると親子共にストレスの軽減が計れそう。
・子どもや小さい子の泣き声に過敏に反応するので、そういった方々と別の場所の確保、個室の確保。
・医療機器の持ち込み、個室の確保。
・涼しい環境、発作時の救急搬送。
・静かな場所の確保（聴覚過敏）。
・視覚支援（イラストを用いた説明）。
・車椅子の利用。
・ご飯となるエネーボ・ラコール。薬類。在宅の医療物品。バリヤフリーの環境。
・人が多いとパニックになってしまうため、個室のような所があると助かる。静かなところもあると嬉しい。大きな声がでてしまうことがあるので、周囲の人に迷惑をかけないか心配。
・静かに過ごせる場所。
・家で過ごしたい…と思ってしまいます。

■災害時の対応についての回答からわかること
・問19災害が発生した場合の不安について「避難所で落ち着いて過ごせるか」「避難所で周囲に特性を理解してもらえるか」が半数以上を占めています。
・災害時に必要な配慮について、人工呼吸器の電源確保や医療機器の持ち込み、発作時の対応、個室や静かな場所の確保、視覚支援、車椅子の利用、バリアフリーの環境等、非常に具体的な意見が出ています。このことから、障がい児の災害支援は一律の対応ではなく、障がいの特性や医療的ケアの状況等に応じた個別の避難支援が必要と考えます。

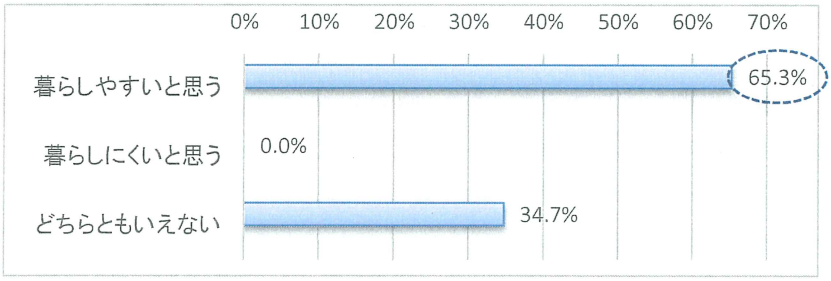
■地域社会への参加

21　どのようなサポートがあれば参加しやすくなるか　　（複数回答　あてはまるものすべて）【%】



その他：外でのイベントは厳しい。

22　芽室町は暮らしやすいまちか　　【%】



23　回答理由

暮らしやすいと思う

・福祉サービスが充実している。（6件）
・子育て支援センターの人がみんな優しい。相談にすぐのってくれたり、心配してくれる。
・ブルーハンカチプロジェクトなど地域住民の理解が広がっている。
・シーグラスなどの事業所と町の商店との関わりが多くあり、地域の見守りの目がある。
・発達支援システムがあること。
・保健員が参加して相談しやすいあつまりがあるので。
・支援センターの職員の方々が親身に相談にのってくれる。
・他の町の充実さはよくわからないけど芽室町は学校も放課後のサービスも手厚くみてくれています。
・町全体の連携がとれていると思う。特に学童と発達支援センター間での共有に助けられました。
・福祉サービスも充実しているからです。ですが、役場とかには相談はしにくい。
・役場の職員さんも対応が柔らかく、わからない手続きも丁寧に説明してくれた。支援センターの職

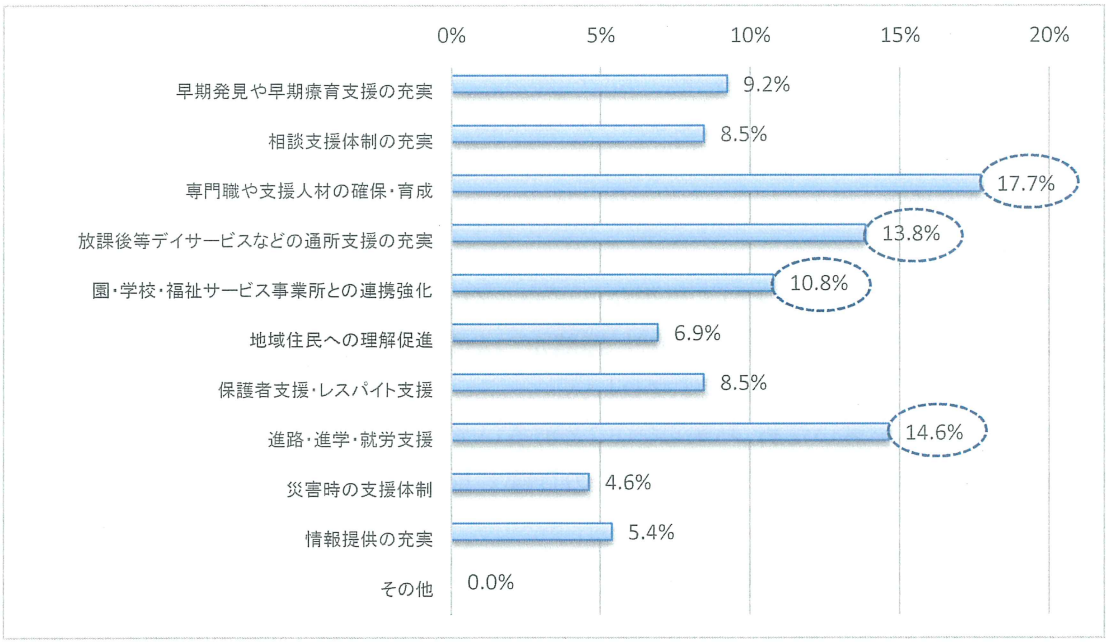
員さんもいつも明るく、親にも子供にも接してくれる。
・福祉に特化した町である。
・相談窓口が親身に対応してくれる。
・日中一時の利用回数が上限がなく利用できるところ。
・町内でお世話になっている放デイさんの取り組みで、体験の活動など協力していただけるところがあること、学校の先生方に支援機関との連携を望むと叶えてくれること、などです。
・残念ながら全ての方とは言えないが、相談窓口に親身に対応してくださる方がいると思えるため。
・福祉サービスが充実してる、学校での配慮もよかった。
・近隣住民には理解をしていただいて配慮をしてもらってる。
・今は学校、事業所、病院などが全て帯広市です。通学や送迎は大変なところもありますが、芽室町はゆっくり過ごせて暮らしやすいです。
・きめ細やかに対応していただいている。保育所に看護師さんが常駐してくれているのは凄い、福祉サービスの１割負担をも、町が負担してくれる事は有り難い。
・小学校の障害児の受け入れ体制がしっかりとあり、色々な障害を持った子供たちと健常児の子供たちが接する機会があるのはとても良いと思う。支援センターの方々も、親身に相談に乗ってくれる。とても前のめりに色々な支援を教えてくれる。
・役場の方や支援センターの先生が親身にお話を聞いてくれる。
・発達支援センターの職員さんたちが親身になってくれるから。
・相談にのってもらえる機関があるため。
・サポートが充実していて困ったことが一度もないから。周囲の住民にも可愛がってもらっている。
・発達検査や支援の開始まで比較的スムーズに行われたと感じたため。
・サービスの充実（金銭面のみ）。

どちらともいえない

・学校や園をつないでくれるケアマネの人が少ない。（知っている限りで芽室町は主に１人の人がやっているように感じる）、外出していなかったり、連絡がつかないことも多いためもっと保護者と他の施設とのつながりをしてくれる人を増やしてほしい。
・療育手帳を取得して日が浅いため、わからないことが多いです。
・自分の家族が障がい者ではないので、障がい者の目線で見ないとわからない事が沢山あると思う。
・福祉サービスがだいぶ充実し、放課後の過ごす場所の選択肢が増えてきた。経済面でも助成があり、福祉サービスの利用がしやすい。ただ成長していくと療育を受ける場が少ない、内容の物足りなさを感じる。
・障害福祉サービスの就労事業所が少ないように感じます。相談窓口は親身に対応して頂いてると思います。
・学校と子育て支援課の連携や、特別支援学級在籍児童生徒への経済的支援など、とても助かります。ただ、子どもに関わる大人の方に発達特性に関してもっと理解してもらえるとありがたいと思う場面はありました。子どもが少年団にお試し参加した際に、特性由来の行動が指導者の方に叱られ、肩身の狭い思いをしました。また子どもが学童に通っていた頃には、先生に子どもの問題ある行動を指摘されるだけで支援があるわけではなく、子どもを安心して通わせられない気がしていました。
・理解してくれている所はたくさんあるけれど、そうでない事もたくさんあると思います。
・地域住民の理解は感じられるが近所に同じような障害児が居なく、子ども会などの行事には参加が難しいと感じる。

・役場で発達の相談をした際、「LDは脳の特性であって障害ではありません」と言われました。病院でそのことを相談して、Drは診断書に「学習障害」と書いてくれました。このような遠回りがあって、なかなか役場では相談しなくなりました。もっと専門的な知識をもった方がいることを期待していました。
・特に芽室町が主体となっている何かで、暮らしやすいとも暮らしにくいとも思いません。
・病気を大きくひとくくりにされ、事例がないからの一言で終わらせられること、事例がなくても、新たな病気があると判断された場合は柔軟に検討してほしい。
・引っ越してきた際に、とても親身になってもらい以後、何かある度に協力してもらえていますが、学校との連携や先生の力不足な面が多々見受けられる。
・今後、年金等の手続きが必要な時にどうしたら良いのか等情報が入らない。就職先が少ない。
・障害のある子が遊びやすい空間があまり無いので。
・町としてはいろいろ考えてくださっていますが、実際に生活している周りの人たち、（子どもも大人も）には理解はまだまだ遠いのかなと思います。
・就学進路選択で困ったか。ら
※回答なし　3人

24　町に優先して取り組んでほしいこと　　（複数回答　あてはまるもの3つまで）【%】



※3つ以上○　1人

■地域社会への参加についての回答からわかること
・問21「どのようなサポートがあれば習い事や町のイベントに参加しやすいと思うか」の結果では、60.9%が「指導者や参加者の理解促進」を挙げており、設備面よりも周囲の理解が最も大きなニーズとなっています。また、24.6%が「介助者の派遣・同行支援」を挙げており、人的な支援を必要とするこどもも一定数いることが伺えます。
・問22「芽室町が障がいや発達に課題のあるこどもとその家族にとって暮らしやすい町だと思うか」については、「暮らしやすいと思う」65.3%、「どちらともいえない」34.7%で、「暮らしにくいと思う」と回答した方はいませんでした。前回調査では、「暮らしやすいと思う」26.5%、「どちらかというと暮らしやすいと思う」44.1%、「どちらともいえない」17.6%、「暮らしにくいと思う」8.8%でした。今回は選択肢が前回と異なるため、単純な経年比較には留意が必要ですが、「暮らしにくいと思う」と回答する方がいなかった一方で、約3分の1が「どちらともいえない」と回答していることから、一定の評価が得られている反面、障がいや発達に課題のあるこどもとその家族が、より安心して暮らせる町づくりには、なお改善の余地があると考えます。
・問24「今後町に優先して取り組んでほしいこと」では、「専門職や支援人材の確保、育成」が17.7%と最も高く、次いで「進路・進学・就労支援」14.6%、「放課後等デイサービスなどの通所支援の充実」13.8%、「園・学校・福祉サービス事業所との連携強化」10.8%となりました。このことから、支援を担う人材を確保し、関係機関が連携しながら、こどもの将来を見通した支援をしてほしいというニーズが表れていると判断できます。

■その他

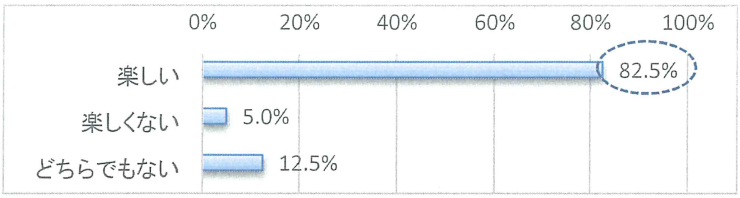
25　芽室町の障がい児福祉施策についての意見・要望

・町内の教育・福祉の現場で障がいに対する理解や合理的配慮について、正しい知識を持っている人が少ないように感じる。
・子供が大人になってからの不安があり親が亡くなった後、どう過ごしていけるのか。今からグループホームなどを増やして欲しいです。
・住み慣れた地域の中で暮らし生活していく為の住まい（グループホーム）や就労先の選択肢や場が少ない。
・高校生からの受けれる療育、支援があまりにも少ない。早期から何事も何度も経験をしていれば、就職、自立に繋がると思います。
・子どもの特性はなかなか親だけだと見つけづらく、長男は個性かなと思っていたら小学生になる時に特性だとやっとわかり、学校で支援をうけています。次男は早いうちからわかったこともあり、支援も早めにうけることができ、大変ありがたいです。未だに「個性」なのか「特性」なのかわからないところも多く、専門の先生に出会うことがなかったら大人になった時に本人が苦労することを考えて、親が子どもと一緒に過ごしているうちに、支援していただいていることは本人にとっても大切なことだと思います。
・非常用電源の購入費助成があると大変ありがたい。
・職場に障害のある方が就労に来ていますが、あまり周囲からの理解が無いせいか、見ていて辛いし、我が子もこの様な対応をされるのかと思うと将来が明るいとは思えません。
・学校生活において、サポート出来る方の人数が増えると、子供達が出来ることも増え、子供もサポートする側もうまく回るようになっていくと思います。
・他市町村と比べてもそん色ない施策が多く、有難い。一方で情報の入手は、人づてが中心であ

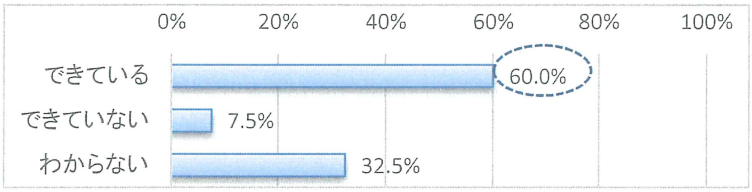
り、行政の情報発信が弱いと感じる（芽室町に限ったことではないが…）。せっかくの施策・事業・補助でも、広く知られなければ宝の持ちぐされ、もったいないと感じた。せっかくLINEがあるのでもっと発信すべき。

■小学生、中学生、高校生向けの質問

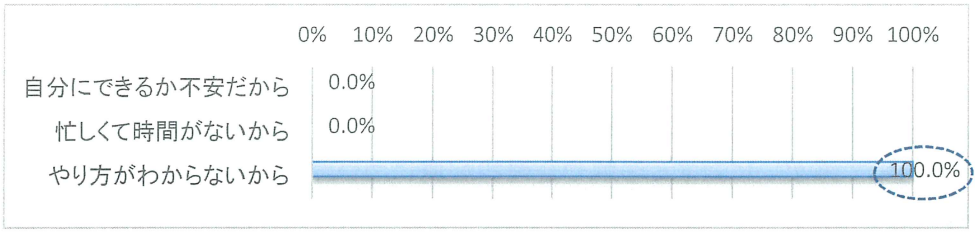
① 毎日楽しく過ごせているか　【%】



② 「やりたいこと」はできているか　【%】

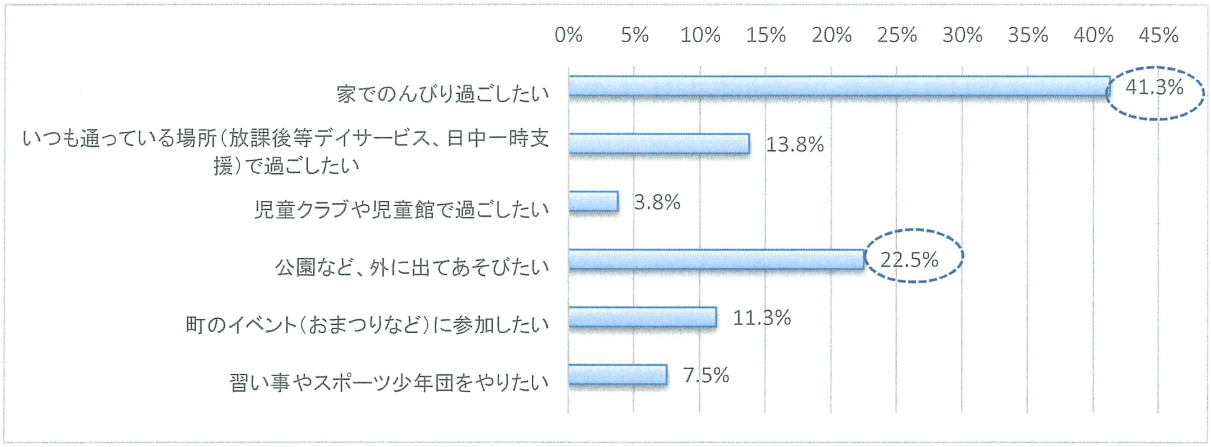


③ 「できていない」理由　【%】



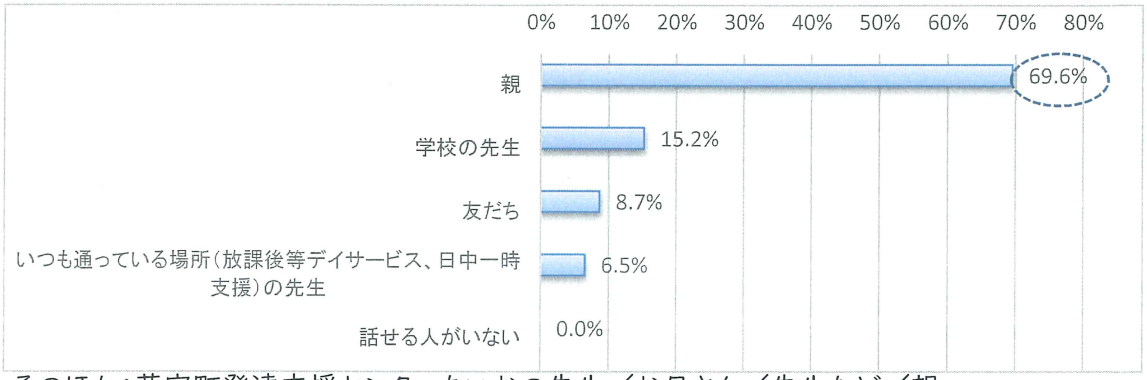
そのほか：体調が悪くてできないから。／自分の時間がないから。

④ 放課後、休日はどんなふうに過ごしたいか　【%】



そのほか：なし

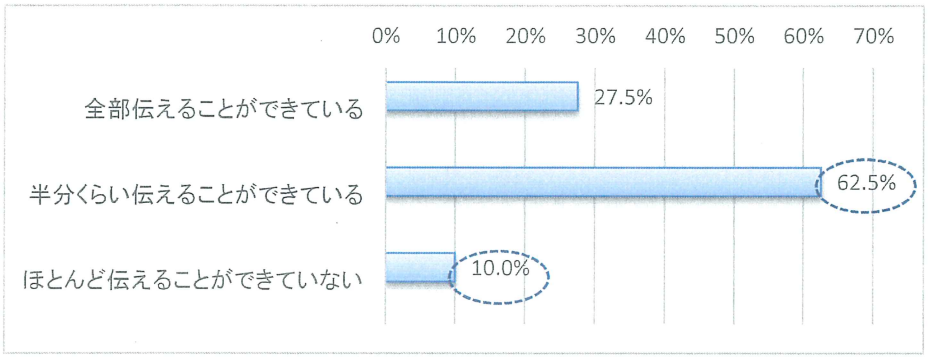
⑤ 困ったことやイヤなことは誰に話すか　【%】



そのほか：芽室町発達支援センターちいむの先生／お母さん／先生など／親

※1つ以上○　4人

⑥ 話をしたいとき、言いたいことを伝えることができるか　【%】



■小学生、中学生、高校生向けの質問の回答からわかること

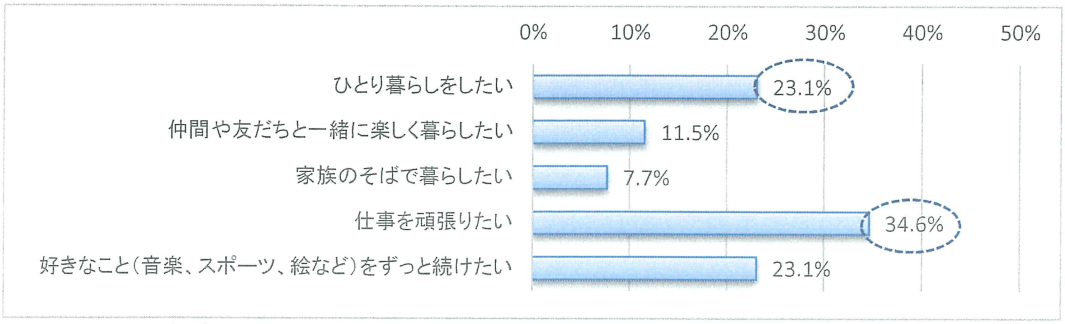
・多くのこどもが日々の生活を楽しく過ごしていることが伺えるものの、「自分が何をやりたいのか」「どうやったらそれを実現できるのか」という見通しや方法を自分一人では掴みきれていないこどもが一定数見られます。こども自身が「自己選択・自己決定」をしやすくなるような、丁寧な働きかけや支援の必要性があると考えます。

・休日の過ごし方については、「家でのんびり過ごしたい」が41.3%と最も高い結果となりました。同時に、「外に出て遊びたい」「町のイベントに参加したい」などの希望も見られました。

・こどもたちが困ったとき、圧倒的に頼っているのは「親」です。しかし、質問⑥にあるとおり、72.5%のこどもが「自分の言いたいことを十分に伝えきれていない」という現状が伺えることから、本人にあったコミュニケーション方法や意思表明を支援する環境を整えることが重要であると考えます。また、相談された「親」が親だけで抱え込まない仕組みや、こどもの理解を深めるための保護者支援の充実が必要と考えます。

■中学生、高校生向けの質問

⑦ 高校卒業後やりたいこと　【%】



そのほか：自動車の免許を取りたいです、自動車も欲しいです 。

⑦ 芽室町がこうなったらいいなと思うこと

・放課後デイサービスの場所が増えるといいな。
・「風の子」を夏休み中は週2回にしてほしいな。
・学校以外の相談できる場所をわかりやすくしてほしい。
・たくさんのお店（マック、ミスド、ケンタッキー、ニトリ、ユニクロ、ゲーセンしせつ）など店があった方が芽室の人は便利だし、住みやすくなると思う。あとB、A型事業所などの福祉的しゅうろうをオークルや九神ファーム以外にもっと増やした方が障害がある人が住みやすくなったり、芽室町での進路のせんたくしがふえると思う（グループホームとかもふくむ）。
・本屋などの店が増えたらいいなと思います。
・町内でバイトをしたい。町内で、一人暮らしがしたい。

■中学生、高校生向けの質問の回答からわかること

・中高生になると、「仕事を頑張りたい」「ひとり暮らしをしたい」「好きなことを続けたい」「自動車の免許を取りたい」など、将来の自立に向けた意識が明確に芽生えていることが伺えます。
・A型・B型事業所などの福祉的就労の場や、グループホームを増やしてほしいという自由記載がありました。こども本人が高校卒業後の働き方や暮らし方について具体的な希望を持っていることがわかります。